



カラスの被害を防ぐために

毎年この季節になると、「カラスに襲われる」などの相談が多数寄せられます。
春から夏にかけて、カラスは繁殖期を迎え、巣やひなに近づいた人間に威嚇をすることがありますので、気をつけましょう。

カラス被害の相談先
〈公園の場合〉
都市計画課 内2103
☎463-0374
〈ごみ対策〉
資源リサイクル課
☎456-1593
〈その他に関すること〉
環境保全課 内2262
☎463-1504

《対策》 被害を未然に防ぐ

脅しの効果を狙った防除器具は、カラスが慣れてしまったため、効果は短期的なものと考える必要があります。速効性はなくても、長期的にみて、確実にカラスの数を減らすには次のような対策が効果的です。

ごみの出し方

- ・収集日当日の午前8時30分までにごみを出す。
- ・生ごみをごみ袋の奥に入れてきちんと閉じるなど、外から見えないように工夫をする。
- ・クリーンネットで、ごみがはみ出さないようにしっかりと覆って固定する。

食料を与えない

- ・庭やベランダに置くペットの餌を取られないように注意する。
- ・餌付けをしない（カラスの貴

重な食料となり、人を恐れない習性となつて、繁殖期に被害が生じる原因になります。カラスを対象にしない餌やりでも、すきを狙ってカラスが横取りし、同じ効果を与えることになりません。

巣材を与えない

- ・針金ハンガーは出しっぱなしにしない（鉄塔や電柱に巣を作ると停電などの被害も起こします）。

巣を作りにくくする

- ・庭木の二股、三股になつてい
- る枝木をせん定して巣を作りにくくし、また下からのぞけるようにする（カラスは餌場に近く人目につかない所に巣を作ります）。
- ・巣が作られたら、卵を産む前に巣落としするのも効果的です（繁殖期に卵を産めないとカラスが困って場所を変える可能性があります）。

子育て中のカラスに近づかないようにしましょう

- ・卵やひな、巣立つたばかりの子を守るため、激しく威嚇攻撃することがあります。

繁殖期は5月から7月でひなが巣立つ6月に被害が最も集中します。カラスからの攻撃を防ぐためにはカラスを刺激しないことです。

- ・図1のような行動に気がついたら早めに立ち去りましょう。カラスの巣やひなから離れれば威嚇は収まります。



図1

カラスの危険な行動

小 ——— 危険度 ———> 大

- ・鳴きながら旋回して威嚇をする
- ・枝や葉を落とす
- ・ガッガッとした声を出す

図2



- ・やむを得ず通行する場合は帽子や傘で防御することもある有効です。また貼り紙などで通る人に注意を喚起するのも良いでしょう。
- ・カラスのヒナを拾ったり、近づいたりするのはやめましょう（図2）。

野生動物にえさをあげないで!

生態系のバランスを崩し、鳴き声やふんなど苦情の原因にもなります。カラス、ハト、たぬきなど、野生動物に餌付けするのはやめましょう。